



島本町新庁舎建設実施設計書 概要版

令和4年11月

1.	計画概要1・2	01
2.	配置計画	03
3.	ゾーニング計画	04
4.	平面計画1・2・3	05
5.	断面計画	07
6.	立面計画	08
7.	現役場庁舎減築改修計画	09
8.	構造計画	10
9.	防災計画	11
10.	環境計画・LCC計画	12
11.	ユニバーサルデザイン計画	13
12.	外構計画	14
13.	設備計画概要	15
14.	事業スケジュール・建て替え計画	15



島本町



株式会社内藤建築事務所 大阪事務所

新庁舎建設の基本理念

「基本理念」

命をつなぎ 夢をはぐくむ 安心して集える親しみのある庁舎 ～みづ清らかで自然あふれる未来へとつながる縁～



敷地概要

所在地	大阪府三島郡島本町桜井二丁目1番1号
敷地面積	7,525.41㎡
開発面積	7,758.19㎡
用途地域	第二種住居地域
建ぺい率	60%
容積率	200%
防火地域	指定なし(法22条地域)
高度規制	第二種高度地区
日影規制	5mライン5時間/ 10mライン3時間/測定面:4m
前面道路	北側道路: 町道 幅員16.00m 西側道路: 町道 幅員8.74m
その他	淀川・水無瀬川の浸水想定範囲外 土砂災害警戒区域の指定なし 埋蔵文化財包蔵地の指定なし

建築概要

主要用途	庁舎
建築面積	3,139.14㎡
延床面積	6,244.59㎡
構造・階数	新庁舎棟 : 鉄骨造・地上4階 広場棟(現役場庁舎) : 鉄筋コンクリート造・地上2階 連絡通路1 : 鉄骨造・地上2階 連絡通路2 : 鉄骨造・地上2階 付属棟 : 鉄筋コンクリート造・地上1階
駐車台数	来庁者用 41台、公用車用21台
駐輪台数	来庁者用 93台、公用車用 9台

付近見取図



1. 計画概要2



2. 配置計画

配置図の基本的な考え方

- 新庁舎棟は現役場庁舎の南側（中庭駐車場）に配置します。
- 現役場庁舎の地下及び1階の一部を残して減築改修し、1階部分を広場や親水空間、地階部分を屋内駐車場や諸室などに活用します。
- 現役場庁舎を利用して、広場、親水空間、パーゴラ、屋内駐車場を配置することでまとまったスペースを確保し、イベント時の催しや災害時の災害対策活動が行いやすい配置とします。

快適な歩行動線の形成

- 北側からの歩行者動線は、広場から連絡通路を通り新庁舎棟2階へアクセスできる配置とします。
- 西側からの歩行者動線は、新庁舎棟1階と2階にアクセスできるよう階段とスロープを設置します。
- 道路から新庁舎棟入口までの経路にスロープなどを配置し、バリアフリーに対応します。
- 北側敷地を一部後退することで、町道広瀬桜井幹線の歩道を拡幅し快適な歩行空間を確保します。

利用しやすい駐車場・駐輪場

- 車出入口を西側に配置し、徒歩で来庁する動線と交錯しない配置とします。
- 敷地内は車路と歩行空間を明快に構成し、歩車分離を実現します。
- 車寄せに隣接する位置に車いす使用者用駐車場とゆずりあい駐車を配置します。
- 来庁者用駐輪場を2か所設け、利便性に配慮します。



3. ゾーニング計画

フロア構成

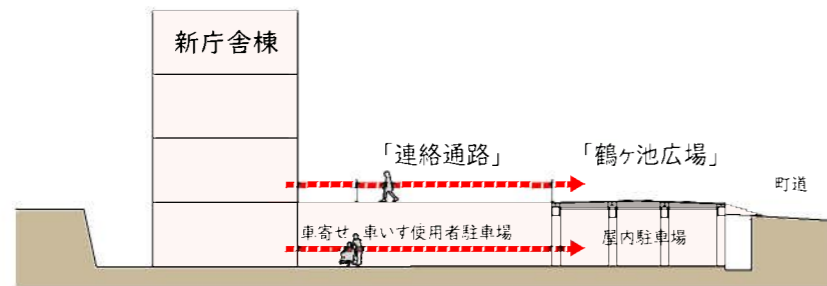
- 1階～3階を執務エリア、4階を議会エリアとし、明確にゾーン分けをすることで分かりやすく使いやすいフロア構成とします。
- 主な出入口となる1階・2階に来庁者の利用が多い部署を配置し、来庁者の上下移動に配慮した計画とします。
- 相談室や住民が利用する会議室などは待合ロビー側に配置します。
- 職員専用の書庫や休憩室等のバックヤードは、来庁者が立ち入らないようゾーン分けします。
- 屋上に空調室外機や非常用発電機などの設備機器を配置し、水害からのリスクを低減します。

● 縦動線

- EV・階段は待合ロビー側のわかりやすい位置に配置し、来庁者の利便性に配慮します。
- 階段を東西にバランスよく2ヶ所配置することで、避難時の安全性にも配慮します。
- EVは、誰にも優しく、操作しやすい大阪府福祉のまちづくり条例に適合したエレベーターを設置します。

● 屋外からのアプローチ

- 車寄せは1階建物出入口に面して計画し、来庁者の利便性に配慮します。
- 車いす使用者駐車場は、1階建物出入口に近接して設け、屋根を設置するなど、雨天時にも配慮します。
- 道路から庁舎への主動線となる連絡通路は、ゆとりのある通路幅を確保し、視認性が高く安全で快適な歩行空間とします。



凡例

	歩行者外部動線		階段動線		EV動線
	執務エリア		会議・相談等		その他諸室
	議会エリア		トイレ・水廻り		廊下・共用部

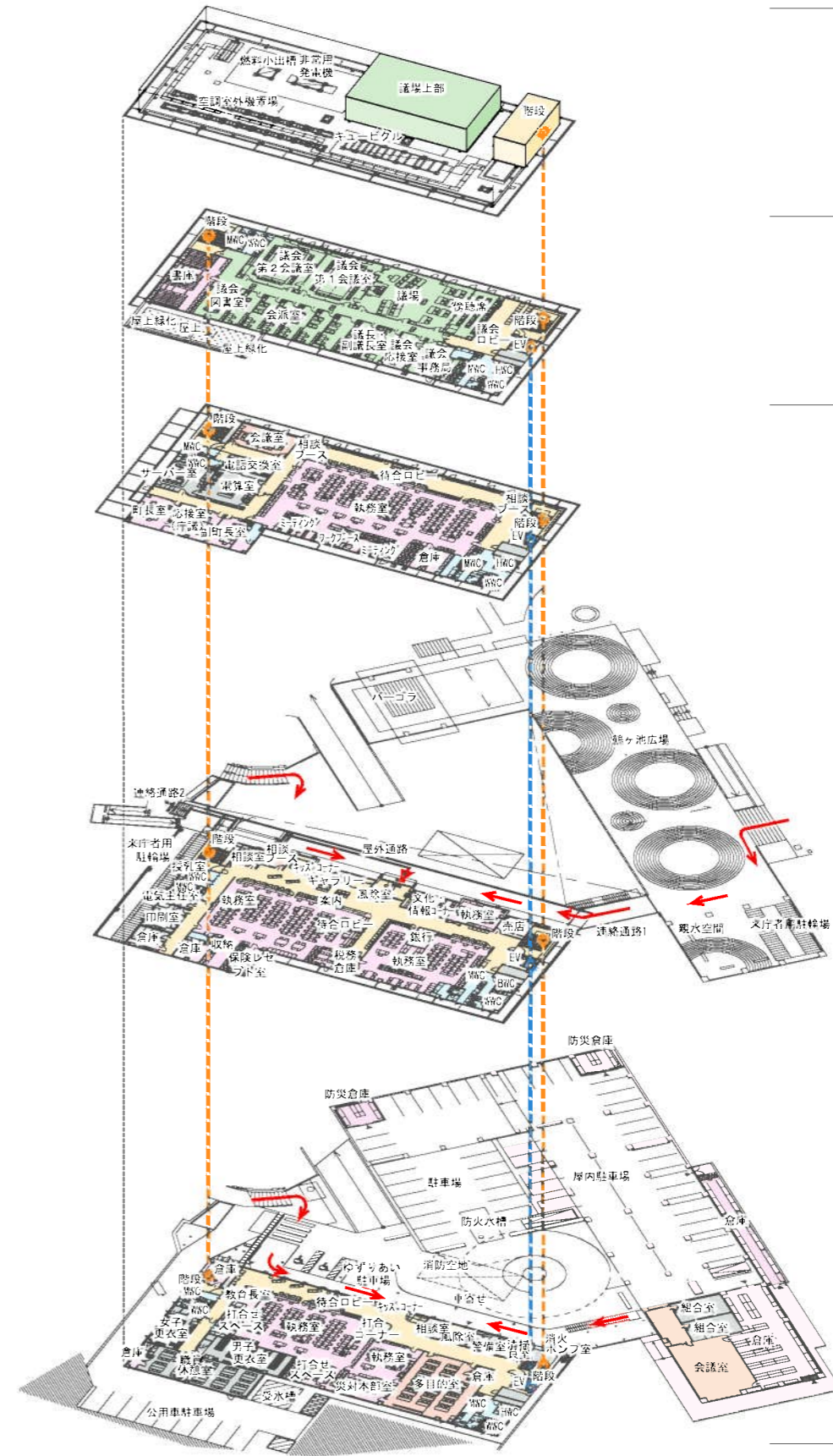
屋上

4階

3階

2階

1階



新庁舎棟

広場棟

4. 平面計画I

1階

<配置部署>

危機管理室・行政委員会事務局・教育総務課・教育推進課・子育て支援課・生涯学習課

① 災害対策本部室

・災害対策本部として迅速な災害対策活動が行えるよう、危機管理室と近接した位置に計画します。

② 多目的室

・会議室としての利用のほか、展示ギャラリーとしての活用や催事などの利用を想定するとともに、選挙の期日前投票所などの臨時的な活用が可能な計画とします。
・利用形態に応じて可動間仕切りにより2室に分割し、利用できる計画とします。

③ 警備室

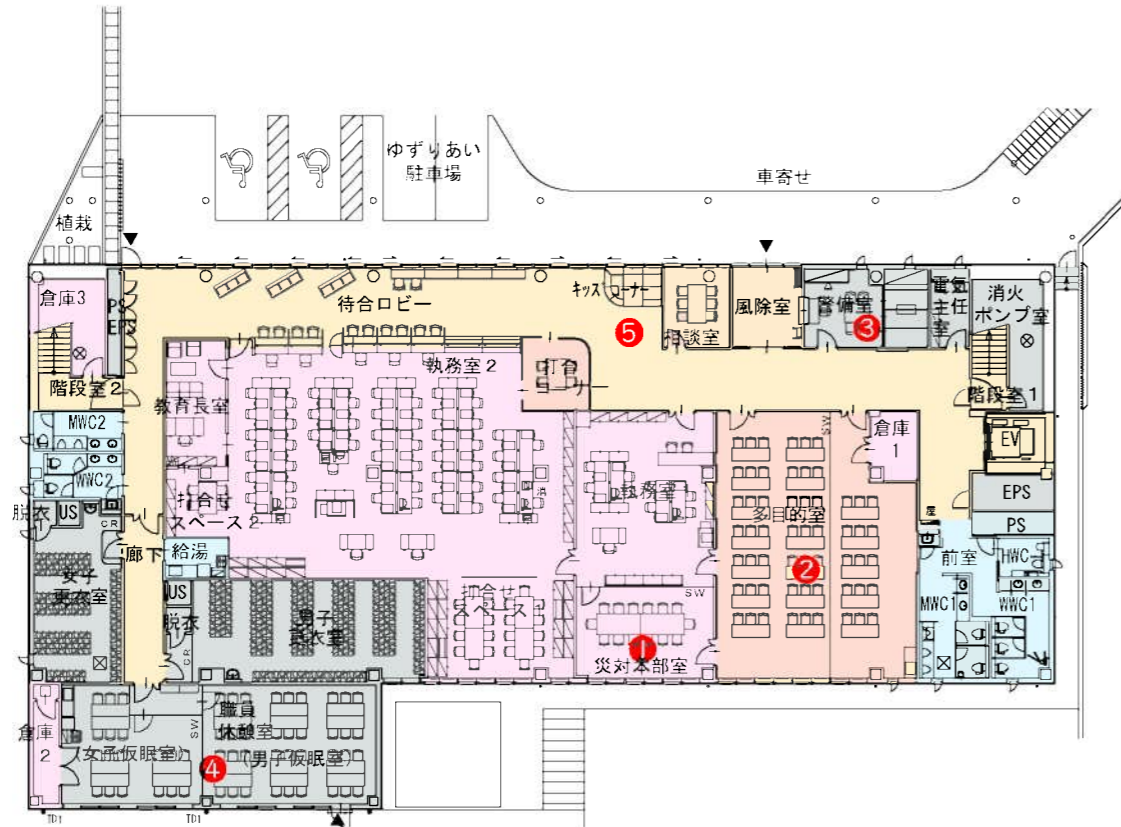
・新庁舎棟の閉庁時に入退室する出入口に警備室を配置し、庁舎のセキュリティ管理を行います。

④ 職員休憩室

・通常時は職員休憩室として利用し、災害時には職員の24時間対応のため、仮眠室として利用する計画とします。

⑤ キッズコーナー

・乳幼児向けの窓口に近接し、明るい窓側にキッズコーナーを計画します。



1階平面図 S=1/350

2階

<配置部署>

政策企画課・税務課・会計課・福祉推進課・保険年金課・住民課・高齢介護課

① 総合案内

・入口から入ってわかりやすい位置に総合案内カウンターを配置する計画とします。

② 文化・情報コーナー

・行政情報や観光案内、町内での生活に便利な各種情報の書籍、パンフレットを揃えて閲覧できるスペースを計画します。

③ 相談室・相談ブース

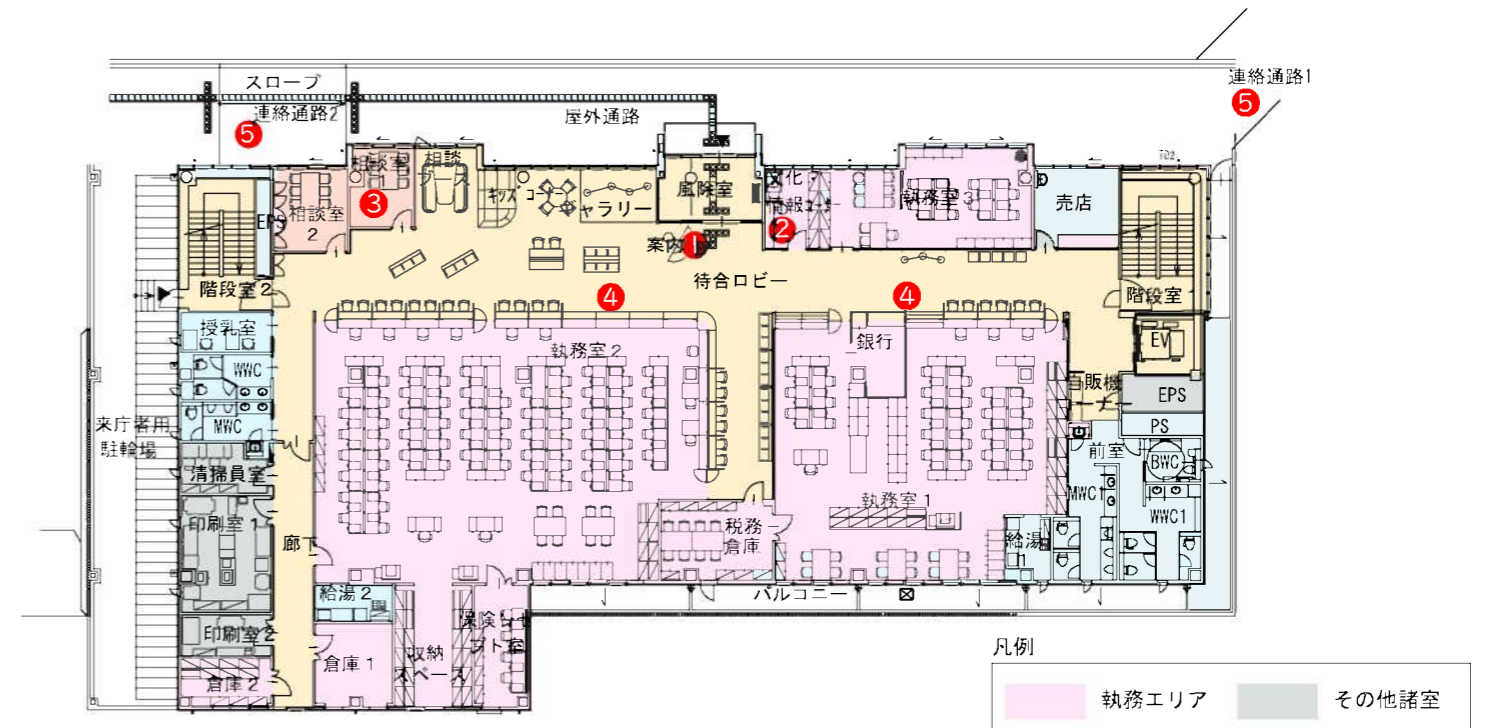
・相談内容に応じて選べるよう個室やブースタイプの相談スペースを設け、プライバシーを確保した計画とします。

④ 窓口

・住民の利用頻度の高い部署を配置し、窓口には仕切りパネルを設け、個人情報を保護する計画とします。

⑤ 連絡通路

・広場から新庁舎棟へ直接アクセスできるよう配置し、快適な動線確保する計画とします。



2階平面図 S=1/350

凡例	
 執務エリア	 その他諸室
 議会エリア	 廊下・共用部
 会議・相談等	 可動間仕切り
 Mレ・水廻り	

4. 平面計画2

3階

<配置部署>

政策企画課、行革デジタル推進課、人事課、総務・債権管理課、財政課、都市計画課、都市整備課、にぎわい創造課、環境課

① 執務室

- ・隣接部署と連携がとりやすく、来庁者にもわかりやすいオープンプラの執務室を計画します。
- ・将来の組織変更や職員数の変化にも対応できるユニバーサルレイアウトやOAフロアを採用します。

② 特別職諸室

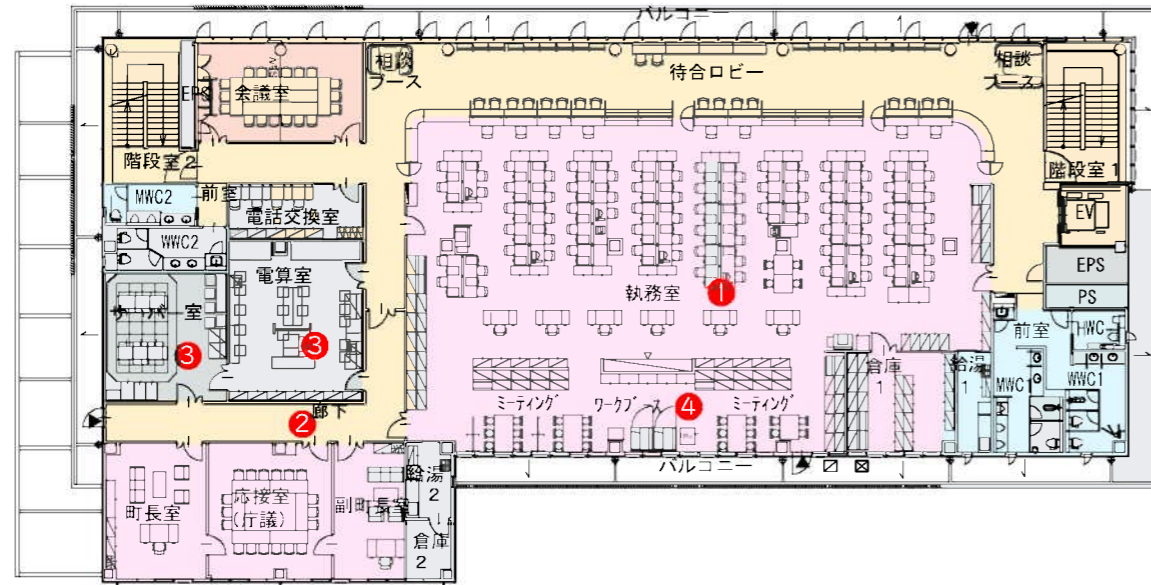
- ・町長室、副町長室、応接室については、独立性の高い配置となるよう計画します。

③ 電算室、サーバー室

- ・デジタル化の推進に対応した、ゆとりあるスペースを確保した計画とします。

④ ワークブース

- ・WEB会議に適した環境整備を整えるため、個室型ワークブースの配置を計画します。



3階平面図 S=1/350

4階

<配置部署>

議場関係、会派室、議会事務局

① 議場

- ・議場は床に段差のある段床タイプではなく、多目的利用が可能となる床が平らなフラット方式を採用する計画とします。
- ・インターネットでの議会中継システムの導入など、開かれた議会機能を導入する計画とします。

② 傍聴席

- ・傍聴席へは、車いす利用にも対応したバリアフリー経路とし、40席程度の傍聴席を設ける計画とします。

③ 会派室

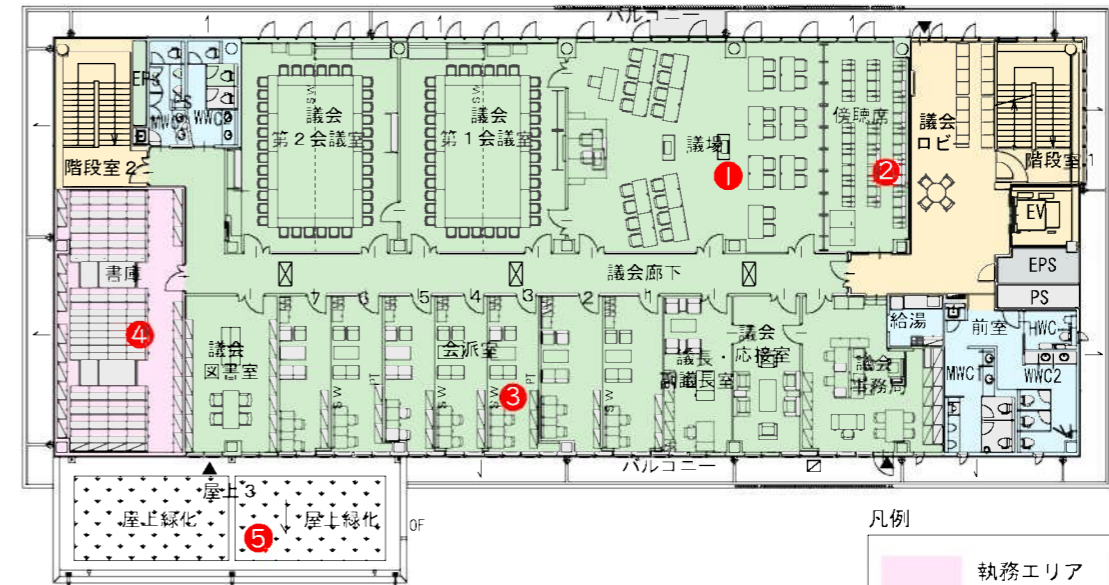
- ・会派の人数変更に応じ、可動間仕切りによって部屋を分割できる計画とします。

④ 書庫

- ・文書保管庫として移動棚を設け、集密書架とする計画とします。

⑤ 屋上緑化

- ・断熱・冷却効果により、空調負荷の低減が可能な屋上緑化を配置する計画とします。



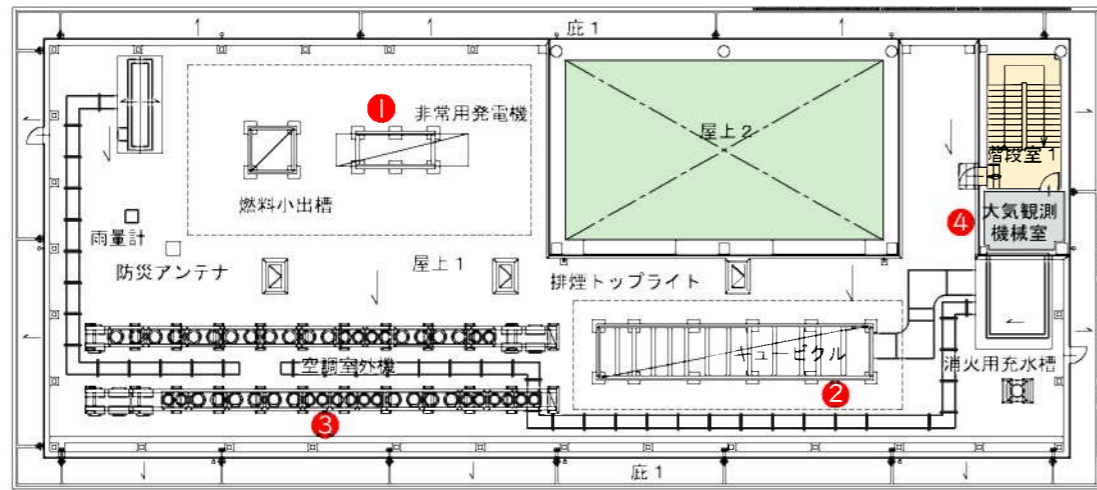
4階平面図 S=1/350



R階

<配置部署>
機械室

- ① 非常用発電機
 - ・停電時は、非常用発電機により72時間の電力を確保します。
- ② キュービクル
- ③ 空調室外機置場
 - ・水害等のリスク低減のため、主要設備を最上階に配置し、建物の機能維持ができる計画とします。
- ④ 大気観測機械室
 - ・最上階に大気観測用の機械室を設けます。



R階平面図 S=1/350



断面計画の考え方

- ・建物構造の経済スパンから階高を4.0mに設定し、梁の高さや設備配管スペースとなる天井裏空間を確保し、合理的で無駄の無い断面計画とします。
- ・執務室やサーバー室などの床は、配線の設置や将来の変更にも容易に対応するため、OAフロアとします。



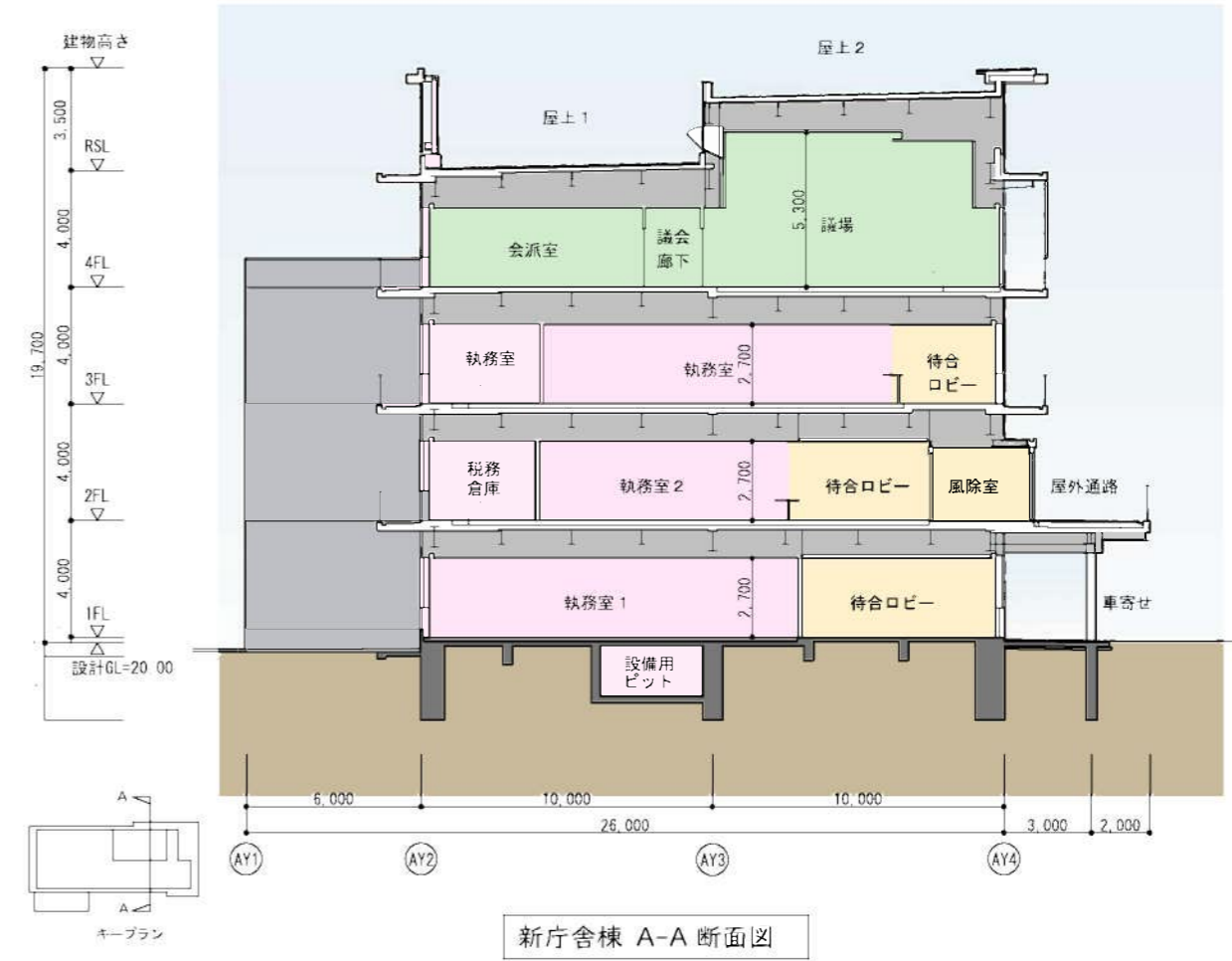
OAフロアイメージ

天井高さの設定

- ・執務室など主要諸室の天井高さは2.7mとします。
- ・来庁者の利用が多い1階・2階の待合ロビーは、天井レスとしルーバーを設置することで、意匠性を高め、空間の広がり確保します。
- ・トイレや給湯室などの水廻りの天井高さは、設備配管スペースを考慮し2.5mとします。
- ・議場は、最上階に計画し、天井高5.3mを確保することで、議場に相応しい空間を創出します。

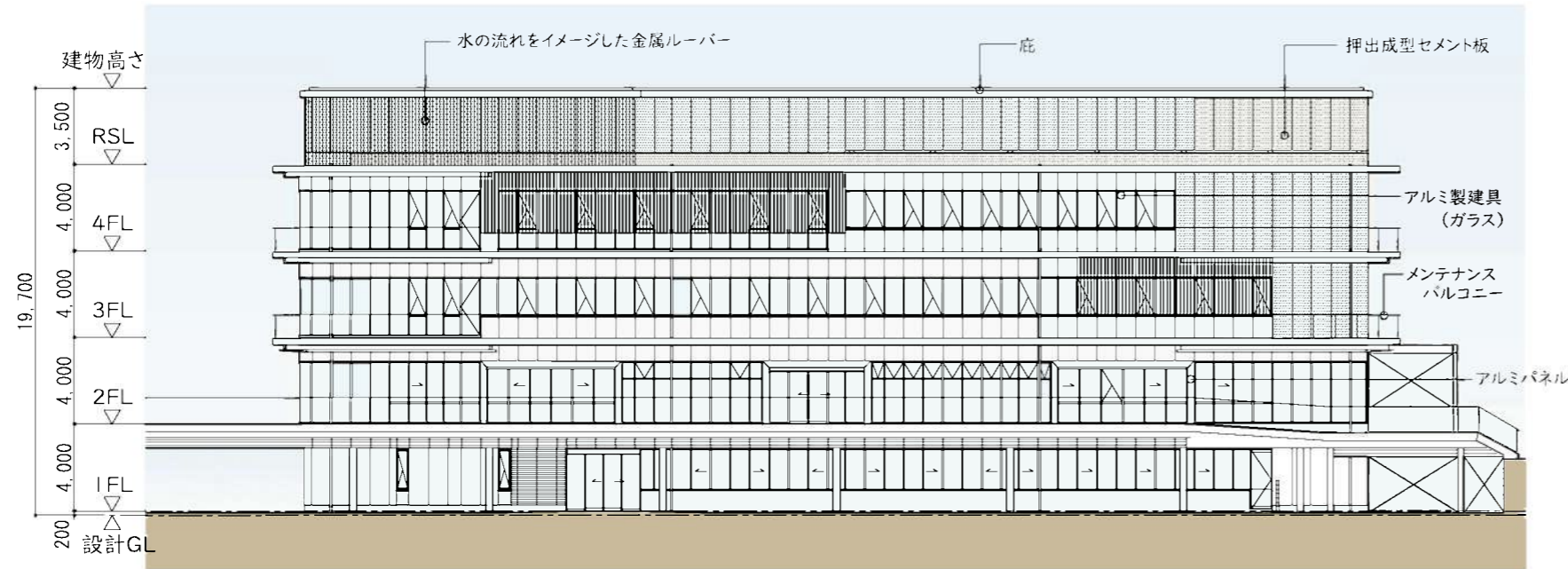
基礎部分の有効活用

- ・基礎部分は、一部を汚水貯留槽・消火水槽として活用することで、経済性に配慮した計画とします。

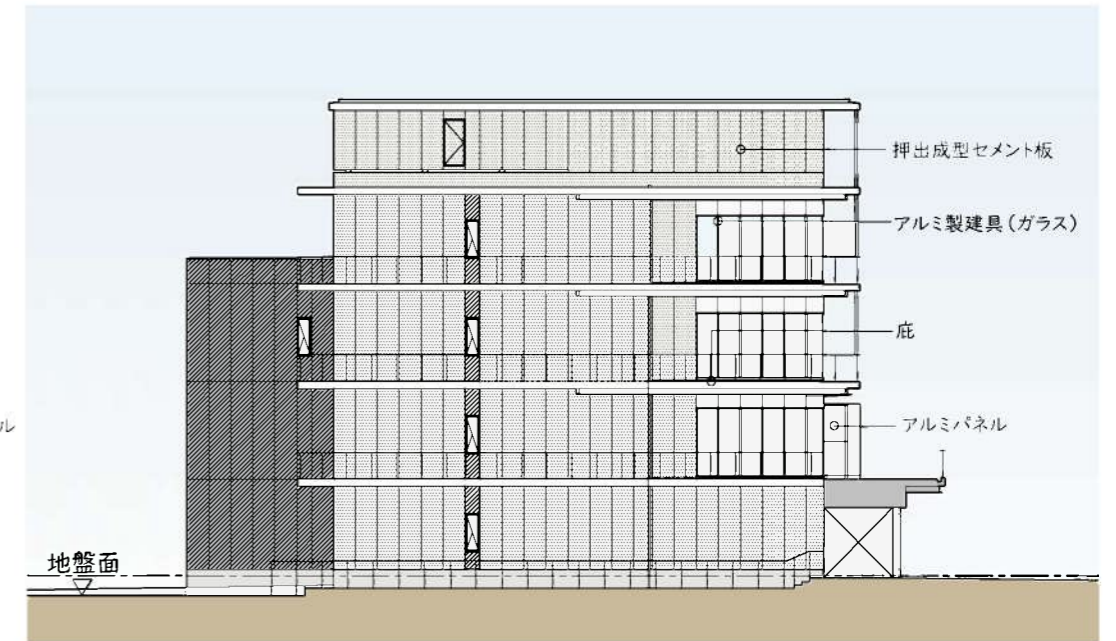


新庁舎棟 A-A 断面図

6. 立面計画



新庁舎棟 北側立面図



新庁舎棟 東側立面図



新庁舎棟 南側立面図



新庁舎棟 西側立面図

立面計画の考え方

- 庁舎に相応しい水平ラインを基調とした安定感のある立面とします。
- 建物の正面となる北側立面は、ガラスを用いた透明感のあるファサード(外観)とします。
- 歩道や広場からでも建物内部の雰囲気が伝わる、住民に安心と親しみを与えます。

島本町の特徴を表現

- 島本町らしさを表現するために、町の特徴である豊かな自然から特に美しく澄んだ水の流れを金属ルーバーであらわし、要所に配置します。

メンテナンスとコストに配慮

- 耐候性がありメンテナンス性の高い建材を用いることで、コストを抑え維持管理がしやすい建物を実現します。開口をバランスよく配置することで、ガラスの面積を押さえつつ、透明感を確保します。
- 建物周囲にメンテナンスバルコニーを設置し、外壁の修繕が容易に可能となります。

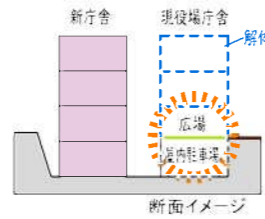
7. 現役場庁舎減築改修計画

鶴ヶ池広場のイメージ



1 今あるものを使い経済性にも優れたECO庁舎

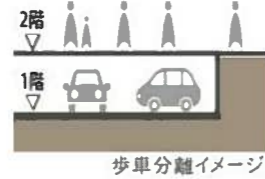
- 現役場庁舎の地下及び1階の一部を残して減築・改修し活用します。
- 現役場庁舎の1階の一部を住民に開かれた広場やパーゴラ、親水空間などに改修して再利用します。
- 現役場庁舎の地下部分は駐車場や会議室、倉庫などに改修して再利用します。
- 現役場庁舎の地下部分を残し、土留めとして利用することで、事業費の縮減を図ります。



断面イメージ

2 わかりやすく利用しやすいコンパクトな庁舎

- 1階は自動車アクセス、2階は歩行者のメインアクセスとすることで歩車分離を実現します。
- プライバシーに応じた相談室など、住民サービスの充実を図ります。
- フレキシビリティ(柔軟性・融通性)の高いオープンオフィスの執務空間とします。
- 住民利用が主となる受付窓口エリアは、1階・2階に集約します。



歩車分離イメージ

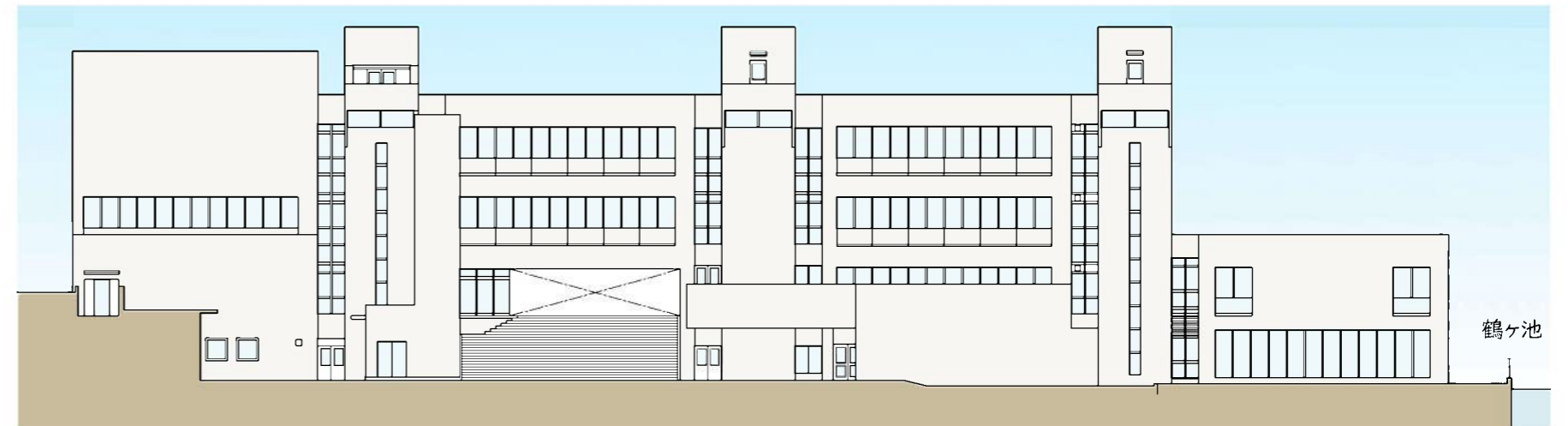
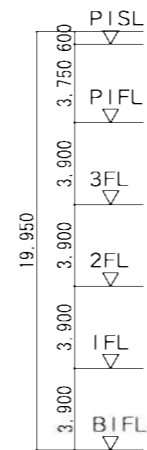
3 周辺環境に配慮したサステナブルな庁舎

- シンプルで自由度の高いスペース、構造体の耐久性や設備の更新しやすさなど、可変性があり次代をリードする100年庁舎を目指します。
- これからの庁舎窓口の変容や大規模災害に対応するレジリエント(適応性がある)で持続可能性の高い庁舎とします。
- 自然豊かな環境と呼応する”水と緑と花”が織りなす潤いある空間、鶴ヶ池への眺望を活かした親水空間を創出します。

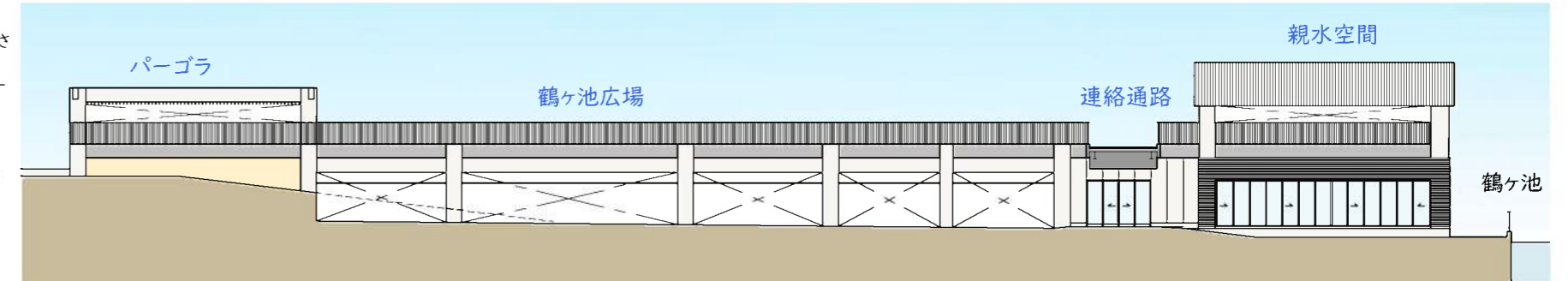
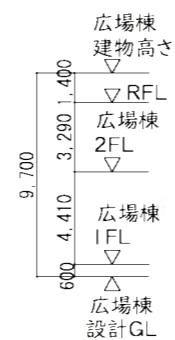


親水空間

SDGs



整備前 現役場庁舎南立面図



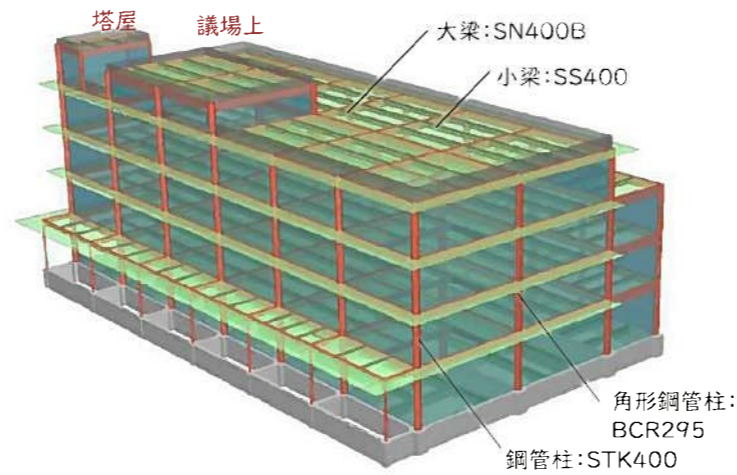
整備後 現役場庁舎南立面図

8. 構造計画

構造概要

1. 新庁舎棟概要

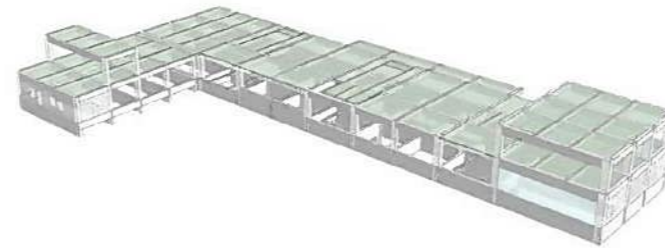
階数	地上4階, 塔屋1階
構造種別	鉄骨造(耐震構造)
架構形式	純ラーメン架構
基礎形式	杭基礎
使用材料	コンクリート 基礎・1階床 Fc27 2階床以上 Fc21 鉄筋 SD295A, SD345他 鉄骨 BCR295, SN400B他



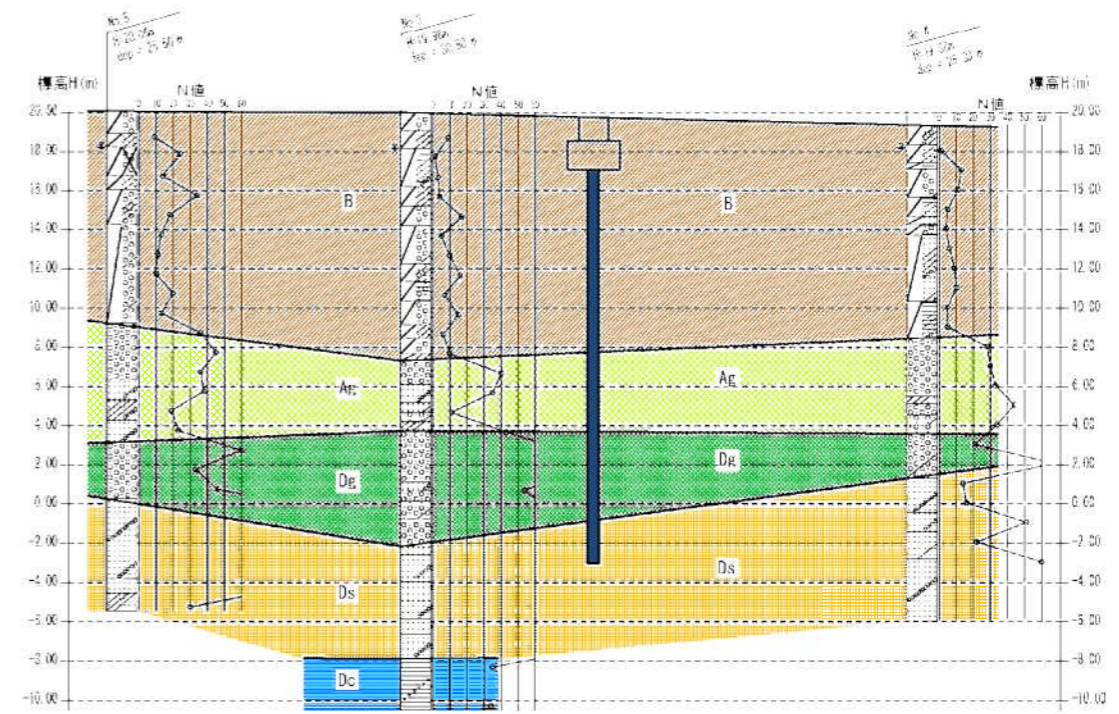
新庁舎棟架構イメージ図

2. 広場棟(現役場庁舎)概要

階数	地上2階
構造種別	鉄筋コンクリート造(耐震構造)
架構形式	耐震壁付きラーメン架構
基礎形式	杭基礎
竣工年	昭和47年
使用材料	コンクリート Fc21 鉄筋 SR24・SD30



広場棟(現役場庁舎)減築改修後イメージ図



推定地層断面図
※設計GL=標高20.00m

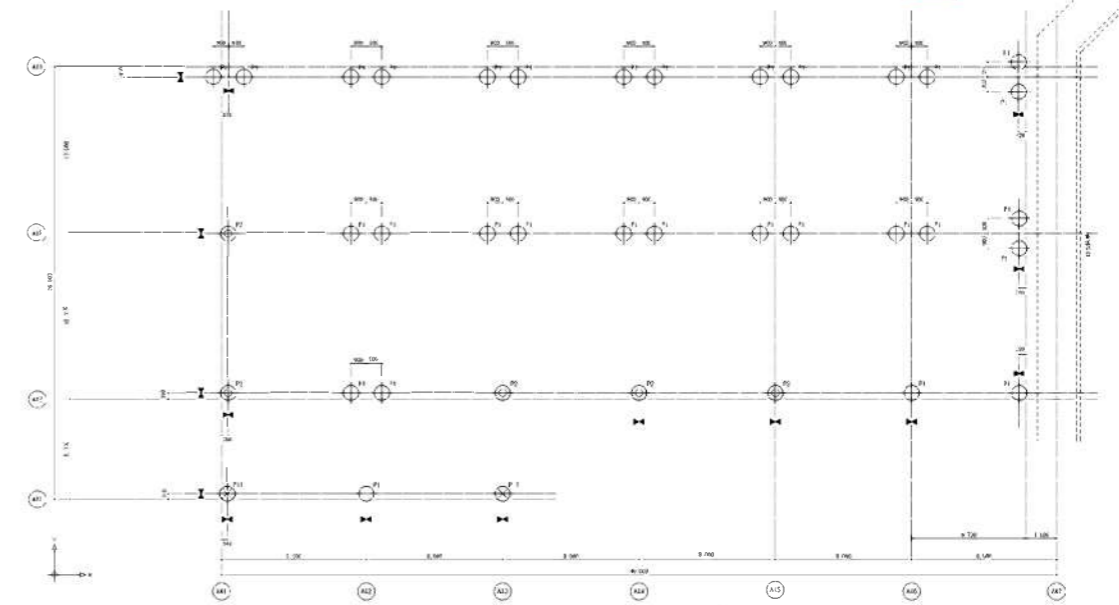
耐震安全性

- 耐震安全性の分類は、「官庁施設の総合耐震・対津波計画基準(国土交通省)における構造体「I類」非構造部材「A類」とします。建築基準法で求められている必要保有水平耐力を1.5倍して構造計画を行い、耐震安全性を確保します。
- 構造体

分類	耐震安全性の目標	重要度係数
I	大地震動後、構造体の補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保に加えて十分な機能確保が図られている。	1.50
II	大地震動後、構造体の大きな補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保に加えて機能確保が図られている。	1.25
III	大地震動により構造体の部分的な損傷は生じるが、建築物全体の耐力の低下は著しくないことを目標とし、人命の安全確保が図られている。	1.00

非構造部材

分類	耐震安全性の目標
A	大地震動後、災害応急対策活動や被災者の受け入れの円滑な実施、又は危険物の管理のうえで、支障となる建築非構造部材の損傷、移動等が発生しないことを目標とし、人命の安全確保に加えて十分な機能確保が図られている。
B	大地震動により建築非構造部材の損傷、移動等が発生する場合でも、人命の安全確保と二次災害の防止が図られている。



新庁舎棟杭伏図

柱番号	杭番号	杭径	杭深	杭型	杭位置	杭深
101	101	φ1,200	12.0	FRP	10.0	10.0
102	102	φ1,200	12.0	FRP	10.0	10.0
103	103	φ1,200	12.0	FRP	10.0	10.0
104	104	φ1,200	12.0	FRP	10.0	10.0
105	105	φ1,200	12.0	FRP	10.0	10.0
106	106	φ1,200	12.0	FRP	10.0	10.0
107	107	φ1,200	12.0	FRP	10.0	10.0
108	108	φ1,200	12.0	FRP	10.0	10.0
109	109	φ1,200	12.0	FRP	10.0	10.0
110	110	φ1,200	12.0	FRP	10.0	10.0

9. 防災計画

防災計画の考え方

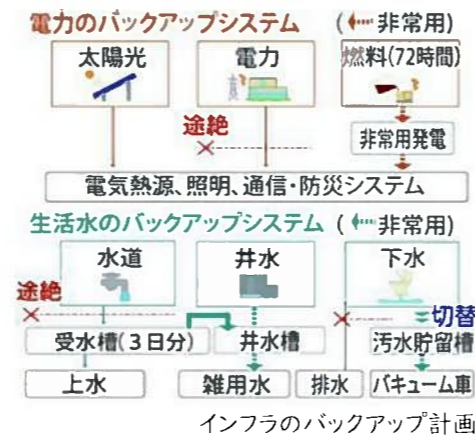
- 計画地(島本町)は、南東部に木津川、宇治川、桂川の三川が合流した淀川の結節点に位置し、町内では淀川水系の一級河川である水無瀬川が流れており、水流に親しみながらも水害と隣り合わせでもあります。また、南海トラフ巨大地震及び各断層帯地震も想定しています。
- 地震や風水害などの災害時においても、災害対策活動拠点としての庁舎機能を維持し、災害対策活動や、災害情報の発信など迅速に対応が可能な計画とします。

憩いの場から防災広場へ

- 憩いの場として利用される「鶴ヶ池広場」を災害時は、防災広場へと機能転換することにより、住民に認知された場所を災害対策活動スペースとして確保することが可能となり、災害時も住民に寄り添い、住民に安心感を与えられるよう配慮します。

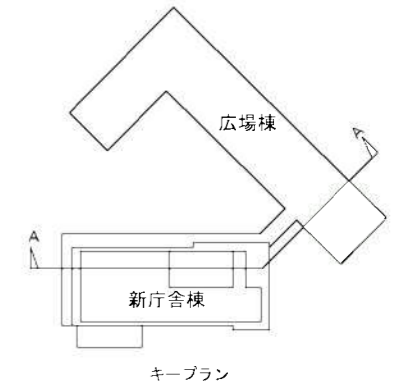
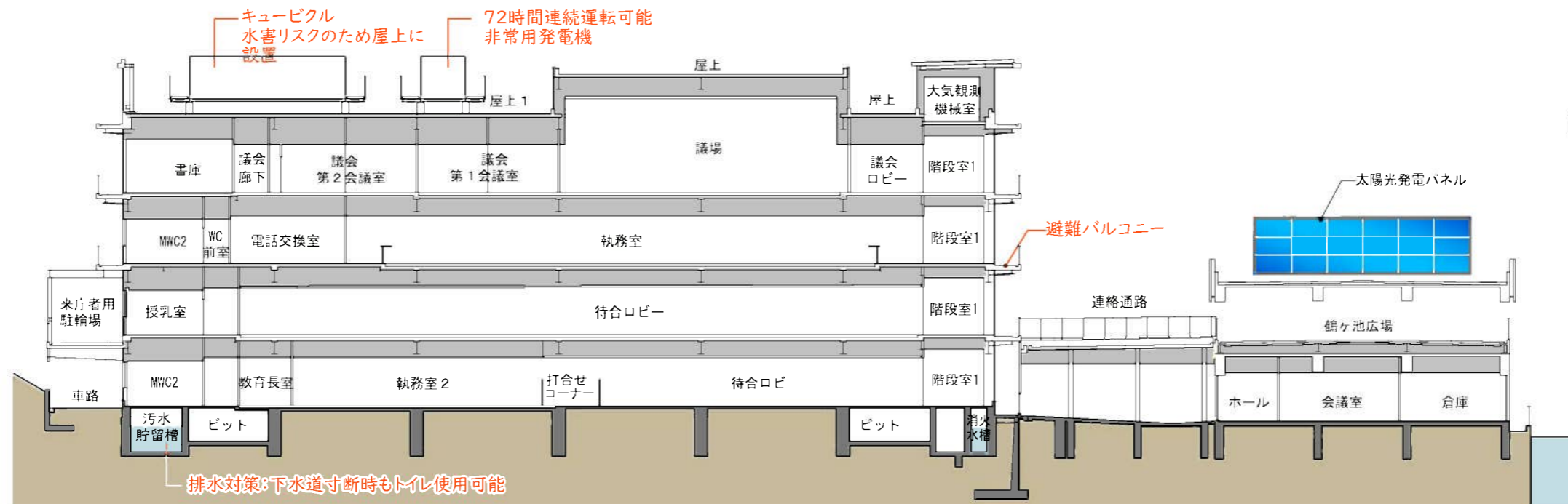
自立可能なバックアップシステム

- 停電時は、非常用発電機により72時間の電力を確保します。燃料は駐車場の地下にタンクを設置し、常時貯蔵する配置とします。
- 受水槽を設置し3日分の上水を確保します。さらに上水(飲料水)と井水(雑用水)の2系統を整備し、災害時に強い給水システムとします。
- 災害時に下水本管が寸断しても庁舎内トイレの利用を可能とするため、地下ピット内に汚水貯留槽を備えます。
- 情報通信網は、災害時優先電話回線、デジタル防災無線など複数設け多重化を図ります。



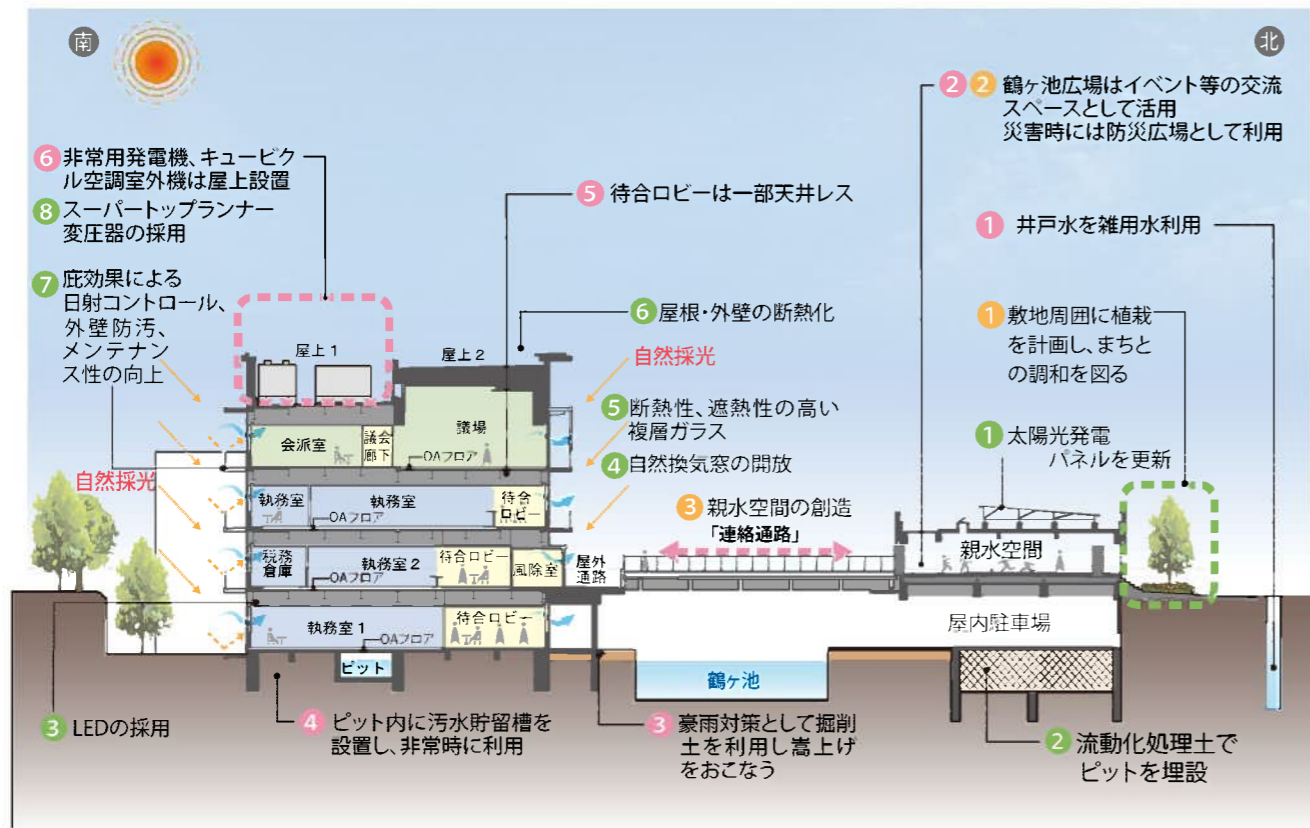
リスク想定と目標設定

リスク	想定リスク	想定被害	目標設定
地震	地震による施設破壊	建物の破損(構造体) 建物の破損(非構造部材) 建物の破損(建築設備) 建物内のエレベーター停止	耐震安全性 I 類、A 類、甲類 エレベーターは停電時にも非常用発電機の電気を送り使用可能
	地震による電力の停止	停電による業務停止、設備機器停止	非常用発電機の燃料備蓄(3日分)
	地震による通信の停止	通信回線遮断に伴う通信機能停止	防災行政無線対応 衛星電話対応
	地震による上水の停止	飲用(生活用)の使用制限	受水槽の備蓄(3日分) 緊急遮断弁設置
	地震による上水の停止(雑用水)	雑用水(便所洗浄)使用制限	井水槽の備蓄(3日分)
	地震による下水の停止	トイレ、洗面などとの排水を要する機器の使用不能	汚水貯留槽の設置(3日分)
水害	浸水	建物内浸水による業務停止、設備機器停止	1階床レベルを地盤面から0.2m嵩上げ 重要設備を屋上に設置
雷	落雷による施設破壊	破損した外壁の落下による二次被害	避雷設備レベルIV(保護効率85%)
	落雷による瞬時停電・電圧低下	サーバー等に障害が生じ業務に支障発生	無停電装置設置



環境計画の考え方

自然エネルギーの利用や省エネ設備機器を採用することで、環境に配慮した庁舎を実現します。



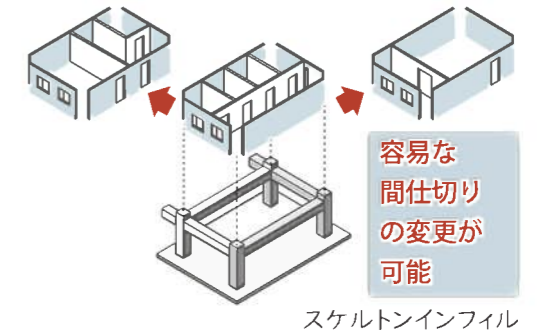
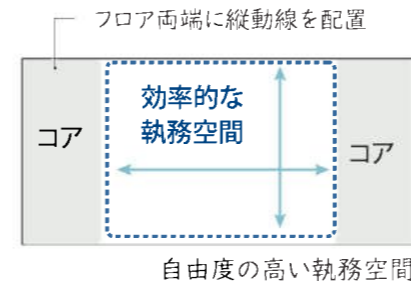
- まちとの調和・ふれあい空間
 - 省エネ・省資源
- 1 植栽スペースの花や植物が来庁者を迎えます。
 - 2 現役場庁舎を減築改修し、広場などに活用します。
 - 3 鶴ヶ池に面して親水空間を設置します。池の横に連絡通路を計画し、眺望のよいアプローチとします。
 - BCP(業務継続計画)
 - 1 井戸水を雑用水として利用します。
 - 2 広場は、広い屋外空間を活かし、災害時に防災広場として利用します。
 - 3 地面の一部高上げにより豪雨時の浸水対策を行います。
 - 4 災害時に下水本管へ汚水を流せない場合は、ピット内に設けた汚水貯留槽を使用します。
 - 5 待合ロビーは一部天井レスとし非常時のメンテナンス性を確保します。
 - 6 非常用発電機、キュービクル、空調室外機は屋上に設置し、浸水対策を行います。
 - 省エネ・省資源
 - 1 太陽光発電パネルを更新します。
 - 2 現役場庁舎建物のピットは流動化処理土で埋設し、省資源化を図ります。
 - 3 照明はLEDを採用し、省エネを図ります。また、一部人感センサーにより、照明利用を制御する計画とします。
 - 4 自然換気窓を開放し、中間期の冷暖房、換気負荷を低減します。
 - 5 建物南側の開口部は、Low-E複層ガラスを採用し、断熱性遮熱性に配慮します。
 - 6 屋根、外壁の断熱化を図り、空調負荷を低減します。
 - 7 建物周囲にバルコニー、庇を設置し、日射を遮蔽します。また、外壁メンテナンス時に活用します。
 - 8 省エネ性能に優れたスーパートップランナー変圧器を採用します。

LCC計画の考え方

新庁舎ではスケルトンインフィルや高効率設備機器の導入、メンテナンスバルコニーの設置により長寿命化とライフサイクルコスト(LCC)縮減に配慮します。

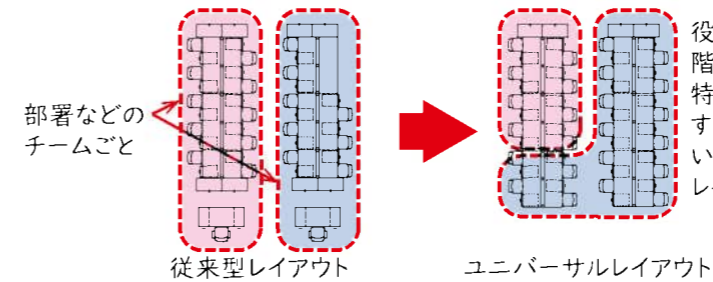
ライフサイクルコストを低減する計画

- 階段・EVを東西にとり、中央部に執務空間を配する計画とすることでまとまった整形の執務空間を確保でき、レイアウト変更等にも考慮した自由な運用を継続的にできる計画とします。
- 建築要素をスケルトン(柱、梁、外壁等)とインフィル(内装や設備)に区分し、改修を容易にします。



- 執務フロアはフレキシブルなオープンオフィスとして、業務の効率化・迅速化を図ります。
- 視線をさえぎらないローキャビネットで構成されたオープンフロアとし、ゆとりのあるデスクスペースを確保します。
- 床をOAフロアにすることによって、配置の自由度が増し将来のレイアウト変更にも柔軟に対応できます。

- 各階の外壁周囲にメンテナンスバルコニーを設置し、定期的な清掃や修繕を容易にすることで、建物の長寿命化を図ります。

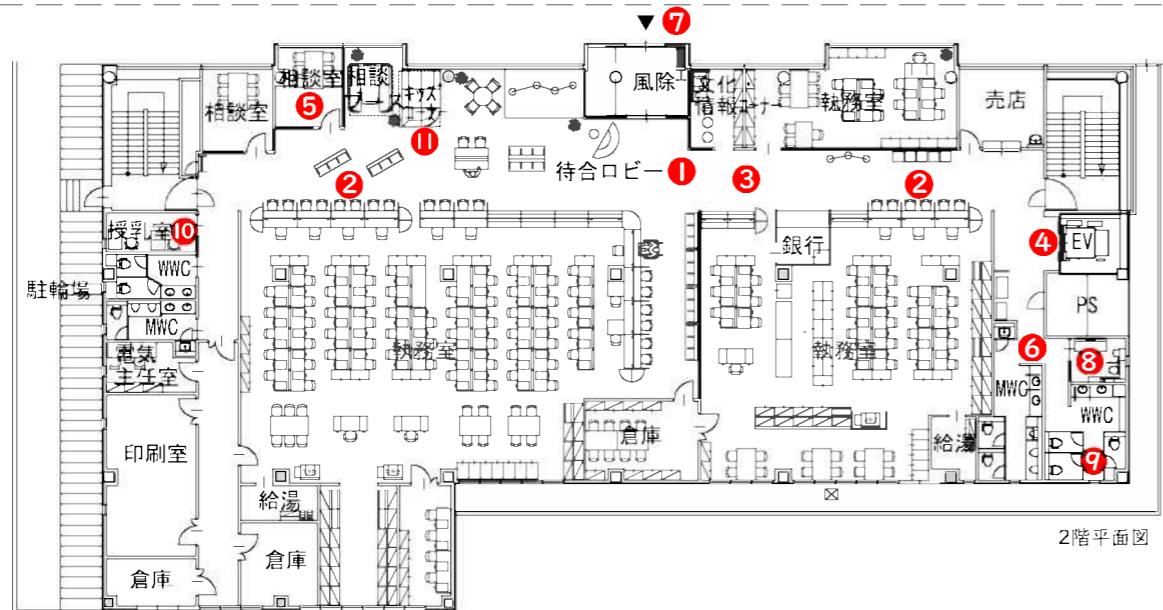
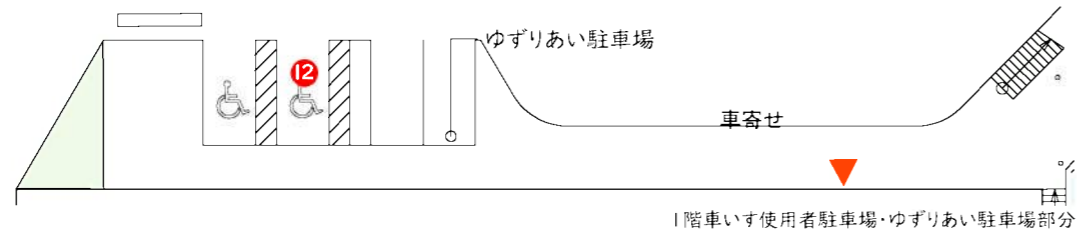


ライフサイクルコストを低減するシステム

エネルギーの有効利用	高効率機器の利用 LED照明器具・人感センサー制御の採用 節水型衛生器具の採用
自然エネルギーの利用	太陽光発電パネルを更新 自然採光を採り入れ、照明コストを低減 自然通風が可能な計画とし、換気コストを低減
外部負荷の低減	庇・ルーバーの設置により日射を遮り空調負荷を低減
長寿命	長寿命、汎用性の高い機器・材料を選定

ユニバーサルデザイン計画の考え方

- 年齢、障害の内容や程度、国籍等に関わらず、誰にとっても分かりやすく、安全で使いやすいユニバーサルデザインによる庁舎とします。
- 利用者の多い窓口部門は、新庁舎棟1階・2階に集約し、利用者にとってわかりやすい配置とします。
- 屋内外の通路やエレベーターなど移動空間については、十分ゆとりのある幅、広さを確保し、段差を設けないバリアフリーに対応した計画とします。
- 案内サインは全体的に統一感を持たせ、スムーズに目的場所に誘導できる仕様とし、窓口ごとに色分け、番号の表示、多言語表示など、見やすくわかりやすいデザインを計画します。



サイン計画の考え方

- 来庁者が分かりやすく快適に施設を利用できる計画とします。
- 目的の場所へスムーズに誘導するため、施設全体のサインの形状、書体、記号、色などについて統一したデザインとし、来庁者が認識しやすいサインとします。
- 必要な情報を正確に得ることが出来るように、表示内容を検討します。また、設置場所に適したサイズとすることで、直感的で分かりやすいユニバーサルデザインに沿った計画とします。

色・使用書体

- 本町では、令和4年度に実施の「地域再生マネージャー事業」において、地域ブランドの形成ならびに発信の際に、デザインの統一感を出し効果的なコミュニケーションデザインを確立するため、カラーパレットやフォントなどの主要なデザイン要素を規定するデザイン計画を策定しました。

色



- 「琥珀色（こはくいろ）」
島本町に住んでいる人の温かみを、深みをもった温かい色味の「琥珀色」で表現しました。



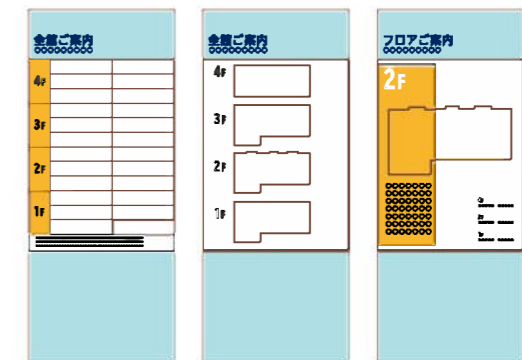
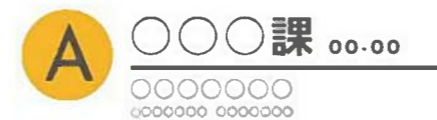
- 「水緑色（みはなだいろ）」
昔から変わらず島本町の自然を守り続けてきた水の清らかさを、日本の伝統色「水緑色」で表現しました。

使用書体

- A1ゴシック**
手書きの温かい雰囲気を残し、角がなく、昔からそこにあったような懐かしさを感じさせる書体。視認性と独自性のバランスが強い。
- 秀英アンチック**
格式高い歴史や文化を表現する際に使用する書体。タイトルに使用するとデザインに締まりが出る。
- セザンヌ**
しなやかさがあがりながら、清潔感のある強さを表現できる書体。特定の使用場面を選ばず、読みやすいことが特徴。
- 遊ゴシック**
教科書にも使用される親しみと懐かしさを感じさせる書体。使う場面を選ばず使用することができる。

サインの表示

- 色・アルファベット・数字を使うことで、外国人の方や色弱の方にも直感的にわかるようなデザイン表示とします。文字はシート切文字等を採用することで更新が容易な仕様とします。



ピクトグラム

- 直感的に情報を理解するのにピクトグラムは有効です。又、子どもや外国人など文字を理解しにくい方にとっても有効な手段となります。※JISピクトを採用
- 個室のバリアフリートイレは、どなたでも利用しやすいよう、「みんなのトイレ」と表示をします。（町立第1小学校児童からの提案を採用）



ランドスケープ計画

- 自然豊かな島本町の環境にふさわしく、植栽が訪れる人をやさしく包み込む配置とします。
- 2方向の道路に面して配置する「鶴ヶ池広場」は、住民の憩いの場となり人々を迎え入れる役割を果たします。
- 道路と新庁舎棟を結ぶ連絡通路は、敷地の高低差を解消し来庁者の主要動線となるとともに、敷地の一体的な利用を可能にします。



符号	樹種目	符号	樹種目
ケ	ケヤキ	クラ	クラピア
ヤザ	ヤマザクラ	ラミ	ラミウム
ハイ	ハイノキ	シロ	シロクロバー
ヤ	ヤマボウシ (高株)	低1	ヤマブキ
イロ	イロハモミジ		フィリツワフキ
ソヨ	ソヨゴ		フッキソウ
ト	トキワマンサク	低2	ヤマツツジ
ウメ	ウメモドキ		フィリツワフキ
ネ	ネコヤナギ		アオキ (挿入)
ノリ	ノリウツギ	低3	フィリツワフキ
ク既	クスノキ (既存)		アオキ (挿入)
			ヤブラン
			アジサイ

植栽計画

周辺の自然環境に配慮しながら、敷地の特性に合った植栽計画を行います。四季が感じられる計画とし、訪れる人々に潤いを与えます。

既存樹木の保存

西側に既存のクスノキを残す計画とします。町の木でもあるクスノキを残すことで現役庁舎の想いを引継ぎます。その他、既存の樹木は可能な限り残す計画とします。

鶴ヶ池広場

広場の前面道路に面した部分には、道路の安全にも配慮しながら、中高木を配置し、広場をやさしく包み込む計画とします。ウメモドキやマンサク、ヤマツツジ、ヤマブキなどを配置し、季節毎の花を咲かせる計画とします。

南側の庭

初夏に花を咲かせるラミウムを植え、季節を感じられる環境を整えます。

屋上緑化

新庁舎4階屋上に屋上緑化を配置します。地被植物を中心にメンテナンスに配慮した樹種を選定します。

想定樹種



クスノキ



ヤマブキ



ケヤキ



ウメモドキ



ソヨゴ



ヤマザクラ



イロハモミジ



ヤマツツジ

マンホール展示

町内で過去に使用した、マンホールを並べて展示します。



13. 設備計画概要

電気設備

1.受変電設備	屋外閉鎖型キュービクル
2.自家発電設備	屋外閉鎖型ディーゼル式エンジン(軽油) 地下燃料タンク(72時間分)+燃料小出槽
3.照明器具設備	LED照明器具
4.照明制御設備	トイレ、授乳室:人感センサー 外灯:自動点滅器+タイマー
5.バリアフリー設備	避難口誘導灯
6.その他設備	太陽光発電設備、放送設備、議場設備、音響設備、防犯カメラ設備 トイレ呼出表示設備、自動火災報知設備、避雷設備、テレビ共聴設備

空調機器設備

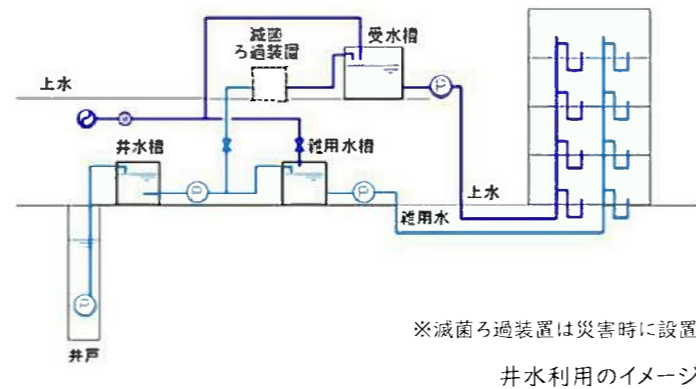
1.空調機器設備	電気式ビル用マルチエアコンによる個別空調方式
2.換気設備	居室:全熱交換機型換気扇 トイレ・倉庫など:局所換気
3.自動制御設備	エアコン・全熱交換機型換気扇の集中制御
4.排煙設備	自然排煙方式

給排水衛生機器設備

1.給水設備	上水:受水槽+加圧給水ポンプ 井水:井水槽+加圧給水ポンプ
2.給湯設備	電気給湯器
3.衛生器具設備	節水器具 自動水栓、自動洗浄器具
4.排水設備	汚水雑排水合流方式、地下ピットに非常用の汚水貯留槽
5.消火設備	屋内消火栓、消火器、移動式粉末消火設備

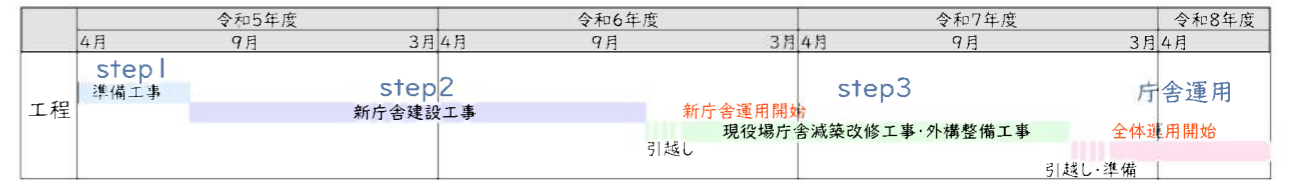
給水設備について

- 給水は井水と上水の2系統とします。
- 井水を雑用水として使用することで、豊かな水資源を有効活用します。
- 災害時に上水が遮断された場合は、井水をろ過装置に通すことで、飲用水としても利用可能な計画とします。



14. 事業スケジュール・建て替え計画

事業スケジュール



建替え計画

- 凡例
- 敷地境界線
 - 敷地境界線
 - 仮囲い
 - 新設建物
 - 解体改修建物
 - 外構整備
 - 使用建物

step1 準備工事
令和5年4月～令和5年7月

- ① 工事用の仮囲いを設置し、工事ヤードを確保します。
- ② 車路(スロープ)を新設し、工事車輛の搬入動線を確保します。

step2 新庁舎建設工事
令和5年8月～令和6年10月

- ③ 新庁舎を建設します。
- ④ 新庁舎周りの外構を整備します。
- ⑤ 工事用の仮囲いの一部を撤去します。

step3 現役場庁舎減築改修工事
令和6年11月～令和8年1月

- ⑥ 引越しを行い、新庁舎での業務を開始します。
- ⑦ 工事用の仮囲いを設置します。
- ⑧ 現役場庁舎の減築改修、連絡通路、屋外階段を整備します。
- ⑨ 現役場庁舎周りの外構を整備します。
- ⑩ 工事用の仮囲いを撤去します。
- ⑪ 全体の運用を開始します。